

笑顔でゴールした中村さん(左)と柴田さん



四国一周約1000キロ(田翔さんと中村さん(経済2))と中村さん(経済2)が走る「若者応援プロジェクト」も参加した。2人と4国一周サイクリング初挑戦で、「途中くじけそうになったこともあった文化推進協会主催」に、が、お互い励まし合い走り抜けた。仲

四国一周1000キロ完走

サイクリング同好会 柴田さん・中村さん

田翔さんと中村さんの大切な実感した11日間かけて自転車で村大輝さん(経済2)がと話す。中村さんは高校1年から、柴田さんは大学入学後にロードバイクに乗った。週2、3回のトレーニングで1日1000キロから2000キロ走行するが、10日以上及ぶ長距離を走ることがなかったため、今回のチャレンジに応募した。同プロジェクトには全日本から大学生6チーム14人が参加し、四国各地を3月11日にスタート、同日にゴールした。2人は愛媛県宇和島市から出発。「のどかな田園風景、四万十川のゆったりとした流れは、都会では味わうことのできない美しさだった。新鮮な魚が安く食べられ、とてもおいしかった」と四国の豊かな自然が魅力だったと中村さんは話す。ただ、6日目に徳島県の山中で激しい風雨に見舞われたときは挫折しそうになったという。荷物がかたがた重くのしかかり、寒さで震えるほどだった。レストハウスを目指し必死で峠をいくつも越えたが休業の看板。たまたま同行していたカメラマンが1個のカップ麺を差し出して、軒先で2人で分けて食べた。「このカップ麺のおかげでなんとか目的地まで頑張ることができた」と柴



意見を交わす大塚さん(左)と中村教授

「言葉って面白い」

文学研究科 大塚明子さん

インタビュー歴30年 日本語教育に生かす

「発見とドキドキの毎日です」。笑顔で話すのは大学院文学研究科で日本語を研究する大塚明子さん(院文修2)。雑誌のディレクター・ライターとしての約30年のキャリアを日本語教育に生かそうとしている。

大塚さんは夏目漱石や森鷗外ゆかりの東京都文京区出身。大学で近代文学を学び、広告関連業界の社員を経てフリーランスに。女性誌でのインタビューを得意とし、多数のタレントや著名人との仕事をこなしてきた。広告ページをプロデュースすることもあった。

仕事は充実していたが、ある日、「書くことだけが、考え表現する手段になった」と気付く。言葉を「読む」「聞く」「書く」「話す」のうち、最も不得手になっていた「話す(しゃべる)」技能を身につけようとナレーション学校の門をくぐった。ナレーションを学ぶうち、さらに「日本人と同じ日本語を話したい」と思っていた。

出身中学の同期会で主伸子文学部教授(日本語教育、音声学)と再会。王教授に近況を話したところ「大学院で研究してみれば」と背中を押され2017年、社会人入試で専攻大学院に入学を果たした。

大学院での研究は予想以上に刺激的だった。ふだん何気なく使っている日本語の特徴を知り、時代とともに変化する言語の面白さも知った。王教授の協力研究者として豪州、韓国、カナダなどでワークショップの講師を務めた。

30年間のキャリアでたまたまインタビューの記録には「会話がスムーズに進む」「ヒントや文章を書く上での極意が隠されていた。貴重な研究材料で、日本語の良い教材になると王先生にアドバイスをされました」

昨秋には、日本語教師へのステップとなる合格率20%台の日本語教育能力検定試験に合格。都内の日本語学校で教え始めた。雑誌の仕事も続けており、研究に仕事が大車輪の毎日だ。活力の源は、「言葉って面白い」という尽きない好奇心。刺激にあふれる毎日が続く。

表彰される後藤さん(右)



TOHOシネマズ学生映画祭 後藤さんグランプリ

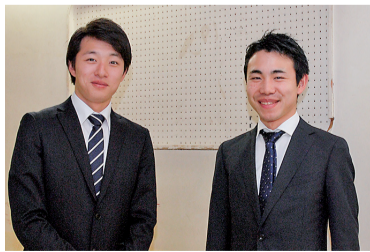
映像制作に興味を持つTOHOシネマズ学生映画祭が学生の才能の発掘を目的に3月23日、TOHOシネマズ日本橋で開催され、後藤駿治さん(ネット情報4)がプロモーションビデオ(PV)部門でグランプリを獲得した。後藤さんは昨年の同映画祭CM部門で準グランプリを獲得しており、2年連続の快挙を成し遂げた。

同映画祭は12回目。ショートフィルム、ショートアニメ、PVの3部門があり、2回の予備審査を経て作品を上映し、ゲスト審査員が審査する。今回新設されたPV部門は、「映画とポップコ」と「映画館」をテーマに、映画館を見ることが楽しく、素晴らしい表現した作品を表彰する。後藤さんの作品タイトルは『おれい少年』だ。

「映画館を訪れば大人も子どもも関係なく誰もが感じる、あのワクワク感を、クールに、かつ印象的に表現しようとした。グランプリを取れて本当にうれしい。自分の思い『これ、おもしろいんじゃないかな』を基



映画ポスター(©2018 ATARASHIICHIZU MOVIE)井上さん(左)と矢吹さん



出演者が迫真の演技をみせた。映画は四つの短編からなり、ほかは稲垣吾郎さん主演、園子温監督の『ピアニスト』を撃つな!、草野剛嗣さん主演、太田光監督の『光

4月6日公開の映画『クソ野郎と美しい世界』の中の、『慎吾ちゃん』の初登場場面、警察署の設定。半日以上かけて行われたロケでは、情報学部から次の皆さんが出演した。(敬称略)

【かわさきPR映像コンテスト】準グランプリ 大塚建(4年次)▽審査員特別賞 鈴木日南乃(3年次)▽同優秀賞 名古屋屋暉(3年次)

【かながわ市民映像祭2017】NPOのプロモーション部門優秀賞 田村匠、鈴木日南乃、前田捺希、山内優樹(3年次)▽わがまちCM部門グランプリ 真内みずほ(3年次)▽同優秀賞 井上さん(法4)と井上耕太さん(法4)が出演した。もともとスタッフに知り合いがいた矢吹さんが出演予定だったが、当日出演できなかったが、当日朝、たまたま部屋にいた井上さんも出演することになり、井上さんは警察官役でせりふもついた。初めての体験だったが「香取さんが目の前にいて緊張した。大勢のスタッフが現場できびきびと働いていて、貴重な経験になった」と話す。矢吹さんは通行人役で登場。「普段何気なく通っているキャンペーンが、撮影の間は非日常の空間になっていた」と振り返る。



中野 英夫 経済学部教授

最近、日本では少し影が薄くなった感もあるラジオ放送ですが、ヨーロッパ、北米の国々では、今もニュースや身近な話題を提供する媒体としてその人気は根強いものがあるようです。

10年余り前、在外研究のためイギリス南東部パークシャー州にあるレディングという街に住んでいた頃、自宅や車のラジオで好んで聴いていたのは、BBC Radio Berkshireという地元のラジオ放送でした。街のニュースや身近な話題など、見知らぬ土地での生活に欠かせない情報がそこにあるからです。

こうした海外のラジオ放送も、今やインターネット配信によって、日本に居ながらにして手軽に聴けるようになりました。外国語を学ぶ皆さんがこれを利用しない手はありません。少し敷居は高そうですが、天気や交通情報の



話であれば、言葉も簡単に理解も容易です。こうしたラジオ放送には、遠く離れていてもその街の人々の普段の生活や文化に触れる多くの発見や体験があります。

例えば、カナダのオンタリオ州トロントにあるFM放送局の番組を聴いてみましょう。ラジオからは、トロント・ブルージェイズなどの地元びいきのスポーツニュースに加えて、なぜかトロント市内の給油所で売られるガソリンの価格も頻りに聞こえてきます。車社会のカナダですが、それは隣国のアメリカと比べてかなり高いため、価格に敏感になっている人々の様子がうかがえます。ラジオ放送は、人々の関心やニーズを映す鏡として、その街の暮らしをうかがわせてくれます。(担当は財政学)

※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。